

韓国のヘルスツーリズムにおける健康・美容認識に関する研究

李 彰美

本研究は、ヘルスツーリズムにおける行動主体がもつ心理的原動力に着目したものである。行動成立のしくみを理論的に検討し、動機の認知的要素を中心として分析を行った。ヘルスツーリズムは、「健康」と「美容」の両要素が重要と考えられ、本研究では、それらをそれぞれ、「健康認識」、「美容認識」と称している。各国の多様なヘルスツーリズムの取り組みの中でも、特に飛躍的な発展を遂げている韓国のヘルスツーリズムを対象とし、健康・美容認識が韓国の社会的・文化的背景の中でいかに形成され、それらが現代の韓国のヘルスツーリズムの展開にどのように反映されてきているかについて検討し、その成果をふまえて、観光行動成立のしくみについて、理論的に検討している。

観光行動のプロセスにおける韓国のヘルスツーリズムの健康・美容認識を説明すると、韓国人の韓方に対する厚い信頼と霊肉一致思想による美に対するこだわりは発動要因として作用し、ヘルスツーリズムに関する態度形成に影響を与えている。すなわち、伝統的健康・美容認識は発動要因の認知的要素として発現されているのである。一方、ヘルスツーリズム産業は、伝統的健康・美容認識が反映された健康・美容要素を取り入れ、観光主体を刺激する。このように観光行動のプロセスにおいて社会的・文化的に形成された動機の認知的側面（健康・美容認識）は、ヘルスツーリズムに対する観光者の態度および観光産業の展開方向に影響を及ぼす重要な要素であることが明らかになった。

キーワード：ヘルスツーリズム，健康認識，美容認識，観光行動

1. 序論

(1) 研究の背景と目的

現代社会は、高齢化、長寿化の進展による本格的な高齢社会を迎え、社会全般で健康への関心が高まっている。社会全般に及ぶ健康に対する関心の高まりは観光にも影響を与えており、人々は観光地でも健康を意識するようになった。

ヘルスツーリズムは、健康や体力の回復・維持・増進、病気予防に主眼をおいた観光形態で、単に観光中の健康効果に着目するのではなく、観光をきっかけとして健康の向上を図るための一つの手段として期待されている。心身の休養による健康増進や活力の高揚を図ること、さらに病気からの回復や健康の希求を目的とするヘルスツーリズムには、温泉療法、森林療法、海洋療法などの自然療法のほか、医療行為や美容サービスまでも

含まれ、旅行という非日常的な楽しみの要素と健康の回復・維持・増進のための健康的要素の程度によって、「健康増進型」から「医療・治療型」まで、幅広い。

ヘルスツーリズムに関する先行研究を概観すると、ヘルスツーリズムの概念、事例分析、開発戦略に関する研究が数多く見られ、近年では、心身への効果、ヘルスツアー商品の選択属性に関する研究も行われている。しかしながら、人々がなぜヘルスツーリズムに参加するのか、それがどのようなプロセスを経て具体化するのかなどについては、観光研究の原論的な問題意識につながる重要な課題であるにもかかわらず、その点に関しては、十分に検討がなされていない。

そこで本研究は、このように多様な展開がみられるヘルスツーリズムについて、行動主体がもつ心理的原動力に着目した分析を通して、行動成立

のしくみを理論的に検討する。動機には認知的要素と感情的要素とがあり、本研究では、それらの中で特に態度の形成・変容に大きな影響を及ぼすとされる「動機の認知的要素」に着目する。ヘルスツーリズムの認知的要素の場合、「健康」と「美容」の両要素が重要と考えられ、本研究では、それらをそれぞれ、「健康認識」、「美容認識」と称している。

本研究が対象とするのは、各国の多様なヘルスツーリズムの取り組みの中でも、特に飛躍的な発展を遂げている韓国のヘルスツーリズムである。韓国は、ヘルスツーリズムにおいて重要な「健康」と「美容」の両要素を取り入れた積極的な取り組みがみられ、さらに伝統的な文化や思想が、その取り組みの中で現代のヘルスツアーに反映されているかという視点から考察するにあたって、適した事例であると考えられる。

以上をふまえ、本研究は、行動主体のもつ動機の認知的側面（「健康・美容認識」）に着目し、健康・美容認識の視点から韓国のヘルスツーリズムの特徴を明らかにするとともに、観光行動成立のしくみにおける動機の認知的側面の位置づけについて、理論的に明確化を図ることを目的としている。具体的には、健康・美容認識が韓国の社会的・文化的背景の中でいかに形成され、それらが現代の韓国のヘルスツーリズムの展開にどのように反映されてきているかについて検討し、その成果をふまえて、観光行動成立のしくみについて、理論的に検討することとしたい。

(2) 研究の手続き

本論文は、6章で構成されており、関連文献、報告書、新聞記事などの資料を通じた文献研究、関係者からの聞き取り調査、ヘルスツアー商品の関連パンフレットの内容分析、アンケート分析を組合せて行っている。

第1章では、研究の背景と目的、研究の構成と方法を示している。第2章では、ヘルスツーリズムにおいて、「健康」と「美容」が行動成立のしくみの中でいかに位置づけられているかについて論じる。第3章では、「健康・美容関連行動」としてのヘルスツーリズムについて多角的な分析を行う。第4章では、第3章で考察した健康・美容

意識のグローバルな変遷をふまえ、その対象を韓国に絞り、韓国の伝統的な健康・美容認識の変遷について考察する。第5章では、韓国の伝統的な健康・美容認識の現代的展開について考察する。第6章では、各章の結論を要約したうえで、結論を提示する。

2. 行動成立のしくみからみるヘルスツーリズム

(1) ヘルスツーリズムの概念と形態

ヘルスツーリズムはこれまで「健康回復、維持、増進を主たる目的とした観光」として曖昧にとらえられてきたが、現在、ヘルスツーリズムでは、がんのPET診断やアトピー性皮膚炎の治療を主目的とした医療旅行から、ストレス解消を目的とした温泉浴、森林浴などを含んだレジャー中心観光まで多くの形態が存在する（日本観光協会、2008）。姜（2004）は、現代の観光において、病氣治療と回復・病氣予防と健康増進というニーズの社会的高まりに対応しようとして、宿泊業や娯楽業は健康増進のための施設やサービスを強化しつつある一方で、旅行業においても、健康にかかわる要素を取り入れた商品作りに取り組んでいると述べ、ヘルスツーリズムを5つの形態に分類して説明した（図1）。

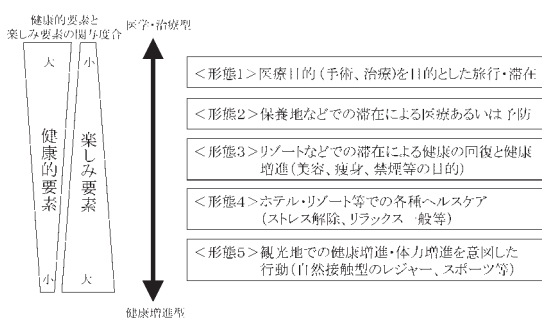


図1 ヘルスツーリズムの形態と観光要素
姜（2004）に筆者が観光要素を加えて作成

(2) 観光行動成立のしくみ

観光行動成立のしくみを理解するために、まず一般行動成立のしくみについて考察する必要がある。態度は、認知的要素、感情的要素、行動的要素

素から説明することができ、その中でも認知的要素は対象に対する「信念」を意味し、態度変容に影響を及ぼす重要な要因である。信念は、知覚と経験から形成されており、行動生起の社会的動機として機能している（丸野，1991；青木・無藤，2002；小川，2006）。歴史上の出来事からの知覚と経験を通じて形成された「信念（社会的動機）」は、観光動機として作用し、観光行動に影響を与える。また、観光行動は観光事業からの諸刺激の影響を受けている。

歴史的に形成されてきた社会的動機（発動要因）と観光地や観光商品の魅力（誘引要因）は、観光行動に直接的・間接的にかかわっている。その中でも、発動要因は「旅をするか否か」の選択に影響するものであり、重要な内部の原動力として観光行動生起に強くかかわっている（Dann, 1977; Um & Crompton, 1990）。観光行動のしくみに発動－誘引要因を対応させてみると、観光動機を形成している信念と欲求は発動要因に、観光事業からの諸刺激は誘引要因として位置づけられる。これらの関係を図示したものが図2である。

観光者の発動要因は、個人の価値観や環境によって形成されており、社会的文脈や状況から理解される必要がある。初期から近年の観光研究を通じて、健康は主要な発動要因の一つとして位置づけられてきたものの、美容はそれほど重要視されてこなかった。しかし、ヘルスツーリズムの形態の中にはスキンケアや痩身、美容整形まで美容にかかわるものが多数存在していることから、ヘルスツーリズムにおいて、美容認識も健康認識と

ともに、観光行動を生起させる発動要因であると考えられる。

一方、現在のヘルスツーリズムにおいて提供されている健康・美容要素は、誘引要因として機能し、観光者を引き寄せている。このように、ヘルスツーリズムにおける観光行動成立のしくみにおいて、健康・美容認識は発動要因として、健康・美容要素は誘引要因として位置づけられ、これらの要因は互いに影響を及ぼし合うことで、様々な形で各国のヘルスツーリズムが展開されている。

3. 健康・美容関連行動としてのヘルスツーリズム

(1) 健康・美容関連行動とヘルスツーリズム形態の関連

ヘルスツーリズムには健康要素と楽しみ要素の度合いによって、さまざまな活動が含まれている。その活動は一般の健康・美容関連行動と類似したものが多い。ヘルスツーリズムにおいて行われている活動と、社会心理学で扱われている健康関連行動は重なる部分が多い。健康関連行動に関する研究の中で扱われている行動には、運動、食事調節など、美容関連行動とみなせる行動が多い（藤内ほか，1990；三浦ほか，2001；土合ほか，2005；坪野ほか，1993；藤内・畑，1994 など）。

しかし、健康関連行動の研究中でとりあげられる美容関連行動は、美容のための行動というよりも、健康を目的とした行動とされており、その結果として美容効果が得られるものとして位置づけられている。したがって、健康関連行動を説明する研究の中で具体的にどのような行動が扱われているのかを概観し、その行動がヘルスツーリズムのいかなる形態に該当するのかを、3つの健康関連行動に沿って分類した。表1は、3つの健康関連行動がヘルスツーリズムの形態（姜，2004）のいずれに関連するのかを示したものである。一般の健康関連行動として説明されている様々な行動は、ヘルスツーリズムの中で行われている健康行動と類似したものが多いことが確認できる。

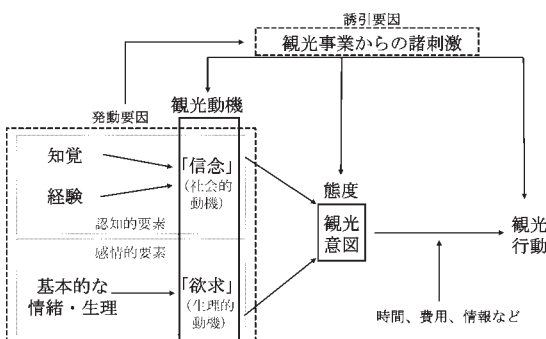


図2 観光行動成立のしくみにおける発動－誘引要因

表1 健康関連行動とヘルスツアーとの関連

健康関連行動	健康関連行動の事例	ヘルスツアー形態				
		1	2	3	4	5
<健康行動> 不調を感じていない人が 健康維持のためによいと はじけて行う行動	健康な人のB型肝炎の予防接 種・胃がん検診・乳X線撮影、 乳検診自己検診など		◎			
	禁煙・食事調節・禁酒など 運動など			◎		◎
<病気行動> 心身の不調を感じた人が とる行動	不調を感じた人の胃がん検 診・乳X線撮影・乳検診自己 検診・予防接種など		◎			
	禁煙・食事調節・禁酒など 運動など			◎		◎
<病気役割行動> 自分自身あるいは他者から病 気であるとみなされた 人とする行動	患者の処方薬服用・胸膈ド レーン管理・冠動脈患者の 事後治療など	◎				
	専門家指示による運動・禁 煙・食事調節・禁酒など			◎		

姜 (2004) によるヘルスツーリズム形態にもとづき作成

(2) 健康信念理論からみたヘルスツーリズム

上述したように、観光行動のしくみの中で「欲求」と「信念」は観光動機として働いている。その中で、知覚と経験によって形成される社会的動機である「信念」は、変容が難しい生理的動機である「欲求」に比べ、態度変容を引き起こす重要な要素である。本研究では「健康信念理論」を手がかりとして、健康・美容に関する認識を把握することにする。健康信念モデルは1950年代に社会心理学者から提唱されたもので (Rosenstock, 1965; Becker & Mainman, 1975 など)、健康関連行動を理解するために最も頻繁に用いられている (野口, 2004; 島井, 2001)。

健康信念 (Health belief) は、健康増進や疾病予防のためにとる行動の根源となる個人の主観的な信念で、主観的罹患可能性 (perceived susceptibility)、主観的疾患重度 (perceived severity)、主観的利得 (perceived benefit)、主観的障壁 (perceived barrier) がある (図3)。健康関連行動の可能性は、病気の認識に関する諸要因 (主観的罹患可能性と主観的疾患重度) と行動の価値に

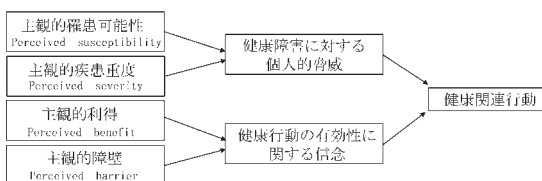


図3 健康信念モデル

対する認識の諸要因 (主観的利得と主観的障壁) に影響を与えているとされている (Straub, 2007; 堀毛, 2009)。

4. 韓国の伝統的健康・美容認識に関する考察

(1) 健康に関する伝統的認識

東洋の伝統的思想である陰陽五行思想と医食同源思想、また心身一元論による有機論的健康観のすべてがみられ、東洋の伝統的思想がよく反映されていた。このような東洋の一般的な特徴を持つ韓国において、韓国独自の特徴として挙げられる点が、韓方への厚い信頼である。

韓国では、薬草学を創始した中国よりもいち早く国家医療機関の中で薬師を設置し、迷信的医療が広がっていた時代に薬の飲用を勧奨した。また、中国の漢方を発達させ、韓国独自の韓方を生み出し、民間に広く普及した。多様な韓方関連書籍の発行や韓方知識をもつ儒医の増加は韓方の民間化に大きな役割を果たし、韓方は沐浴・温泉、養生など庶民生活の至るところまで広がった。朝鮮時代後期になると、知識層ではない女性までもが韓方の知識をもち、病気治療のみならず養生として扱われ、韓方は生活の一部になった。世界的に西洋医学が主流であった近代になってからも、韓国では韓方が引き続き愛用されており、民間療法として、あるいは治療法として重要な役割を果たした。

つまり、韓方は迷信的医療が広がっていた時代から信頼が厚く、治療効果への期待が高いとともに、日常生活場面における養生が一般化していた。このような傾向を健康信念理論に照らせば、「主観的罹患可能性」、「主観的疾患重度」、「主観的利得」が高いと考えることができる。

(2) 美容に関する伝統的認識

「調和の美」と「内面の美」が重要視される東洋の美意識のなかで独特の「霊肉一致思想」が、韓国では美容の歴史全般にみられる。古代・中世までは外見を磨くことで、近世には内面を磨くことで霊肉一致思想を実践した。特に朝鮮時代では、妓生などの身分の低い女性と婦女子に対して求め

る美の性格が異なり、内面の美が強調された婦女子にも外見の美に対するこだわりがみられるようになる。

つまり、外見を美しくすることと内面をきれいにすることは、ともに外見をより美しくすることにつながるものとみなされている。当時の女性は美への強い欲求や期待を抱いており、美への努力を怠ると直ちに醜い容貌になると考えていたことから、美容の面では健康信念理論における「主観的罹患可能性」と「主観的利得」が強く働いているものと考えられる。

歴史を積み重ねて形成されてきたこのような韓国伝統の健康・美容認識は、健康・美容行動の発動要因となっていたのであり、韓国独自のヘルスツアーズの展開においても、それらを引き起こす原動力となっていたものと考えられる。

5. 韓国における健康・美容認識の現代的展開

(1) 現代における韓国の健康・美容認識

日韓の大学生を対象としたアンケートを実施して比較分析した結果、まず、日韓の女子学生の健康認識に関しては、健康信念別の検討では「主観的障壁」のみ差異がみられたものの、質問項目別にみると、それに加え「主観的疾患重度」と「主観的利得」のそれぞれ1項目に差異がみられた。そのため、「主観的疾患重度」と「主観的利得」においても、日韓の差異が全くないとは言えない。つまり、韓国の女子学生の方が日本よりも「主観的障壁」が低いうえに、「主観的疾患重度」と「主観的利得」がやや高いため、健康行動を実践しやすい健康信念を持っている。

男子学生は「主観的罹患可能性」が低いものの、「主観的疾患重度」と「主観的利得」が高く、「主観的障壁」が低いため、同様に健康行動を実践しやすい健康信念を持っているといえる。また、韓国では、男女ともに韓方への信頼も厚く、韓方治療への関心も高かったほか、健康診断や治療・韓方治療が体験できるヘルスツアーへの参加意向も高かった。

美容認識に関しても、韓国の大学生の方が男女ともに「主観的罹患可能性」が高い。男子学生は

「主観的利得」が高い一方、女子学生は「主観的障壁」が低く、男女ともに実際の美容行動に移りやすい美容認識を抱いていた。韓国の男女ともに、韓方美容への信頼や関心が高く、美容施術やエステの効果に対する期待も高く、韓方美容やエステの含まれたヘルスツアーへの参加意向も、日本の学生よりはるかに高かったことから、韓国人学生は美容に対して強いこだわりを抱いているといえる。

このような現代韓国における健康・美容認識には、韓国の伝統的な健康・美容認識が反映されていると考えられる。前章で明らかにした通り、健康認識に関しては、韓国では伝統的に「主観的罹患可能性」、「主観的疾患重度」、「主観的利得」が高い傾向があった。一方、現代韓国では、男子学生の「主観的罹患可能性」は低いものの、健康に対する「主観的疾患重度」と「主観的利得」においては男女ともに高い傾向がみられた。

さらに、現代韓国では男女ともに、伝統的健康認識には見いだせなかった「主観的障壁」が低い傾向もみられた。現代韓国に「主観的障壁」が低い傾向がみられるようになったのは、安価で良質な医療・健康サービスの増加により時間的・経済的なコストがかからなくなったことによるものと考えられる。つまり、韓国では、健康行動のデメリットに対する認識は低い一方、病気の深刻さと健康行動のメリットに対する認識が高く、健康行動を実践しやすい健康信念を持っている。また、韓方医療の効果に対する信頼も厚く、長い歴史の中で形成されてきた韓方に対する信頼が、現代の韓国人の健康・美容認識にも反映されているといえよう。

美容認識に関しては、韓国では伝統的に「主観的罹患可能性」と「主観的利得」が高い傾向があった。現代韓国でも「主観的罹患可能性」が男女共通して高い。また、男子学生は「主観的利得」が高く、女子学生は「主観的障壁」が低い。伝統的美容認識には見いだせなかった「主観的障壁」の低い傾向は、安価で良質な美容サービスや施設の増加により、時間的・経済的なコストに対する抵抗が減少したことによるものと考えられる。

美容に対して敏感であることは男女が共通していながら、男子学生は美容行動のメリットに対す

る認識が高く、女子学生は美容行動のデメリットに対する認識が低いいため、男女ともに美容行動の実践に移りやすい美容信念を持っている。このような点は、古代から近代まで続いた霊肉一致思想による美容へのこだわりが現代まで受け継がれているためであると考えられる。また、男女を問わず韓方の美容効果に対する信頼が厚いのは、古代から近代まで形成されてきた韓方への信頼の厚さが美容にまで波及し、現代に至っても影響を与えているためと考えられる。

(2) 現代における韓国の健康・美容認識

日韓両国のヘルスツアー商品の分析結果をふまえ、韓国のヘルスツアー商品にみられる健康・美容要素の特徴について考察した結果、まず健康要素に関しては、全ての形態で温泉などの自然を活用することが多い日本に対して、韓方を活用することが韓国の特徴となっていることが明らかになった。これは、古くから温泉を信頼していた日本と異なり、韓国は温泉を単独ではなく、健康食・韓方剤などと併せて利用しており、韓方を信頼してきた歴史的背景が反映されているものと考えられる。

美容要素については、温泉地やホテルでのエステサービスが多い日本と比べ、一般施設でのエステサービスの利用が多いことが、韓国の特徴である。これは、エステに関する施設が日常生活に広く浸透し、このような施設を観光にも活用するようになったものと考えられる。医療の美容的活用が多くみられるのは、美容医療が発達していることを意味しており、韓国の美に対する強い欲求が美容医療の発達をもたらしたと考えられる。

次に、韓国のヘルスツアー商品には、現代の韓国の健康・美容認識が反映されているものとみなし、パンフレット分析と聞き取り調査を通して日韓のヘルスツアー商品を比較分析した。その結果、健康面での効果を強調しすぎず、自然による癒しをアピールすることが多い日本に対し、韓国では、医療と健康に重点がおかれることが多いことが明らかになった。病気のかかりやすさを強調し、「主観的罹患可能性」がみられるとともに、早期発見の完治率をアピールしており、末期の癌などの危険が強調され、「主観的疾患重度」が表れている。

また、直接的な表現より婉曲な表現を好む日本に対して、韓国では直接的な表現や効果がすぐに現われることを期待する傾向があり、健康関連行動の直接的な効果が強調されている。さらに、韓国のヘルスツアー商品には韓方の積極的活用による韓方への信頼と、医療や関連施設の多様な美容への活用による美容へのこだわりがみられる。また、病気治療における医療技術のアピールや健康診断の予防効果などの健康関連行動のメリットと、韓方の美容効果の優秀性が強調されたり、韓国式サウナ・エステによる美肌効果がアピールされ、「主観的利得」がみられる。

現代韓国において、男女ともに健康診断や治療が含まれている旅行への参加意向が高い。韓国では健康に対する「主観的罹患重度」と「主観的利得」が高く、健康行動が実践しやすい健康認識をもっており、ヘルスツアーでの健康行動への参加意向にも影響を与えているものと考えられる。また、女子のみが美容に関する高い関心をみせている日本と比べ、韓国では男女ともに美容への関心が高く、最近のヘルスツアーの中で推進されている美容整形やエステなどの美容関連行動への参加意向も高い。美容関連行動によるデメリットよりメリットに関する認識が高い傾向は、ヘルスツアーの美容関連行動に対しても「主観的障壁」より「主観的利得」を強く認識することに影響を与え、美容が体験できる旅行への参加意向を高めたと考えられる。

表2は、以上に述べてきた健康・美容認識を、健康信念理論の視点から整理したものである。

表2 健康信念理論からみる韓国の健康・美容認識

	健康信念	伝統	現代		ヘルスツアー商品
			男	女	
健康認識	主観的罹患可能性	○	△	—	○
	主観的疾患重度	○	○	○	○
	主観的利得	○	○	○	○
	主観的障壁	—	△	△	—
美容認識	主観的罹患可能性	○	○	○	—
	主観的疾患重度	—	—	—	—
	主観的利得	○	○	—	○
	主観的障壁	—	—	△	—

【注】○：高い、△：低い

動主体の態度は観光事業に反映されることで、両者は相互に影響し合っている。 ■

【参考文献】

- 青木多寿子・無藤隆(2002)：日常認知の発達理論。中島義明編，現代心理学〔理論〕事典，朝倉書店。
- (Becker, M. & Mainman, L. (1975) Sociobehavioral Determinants of COUpliance With Health and Medical Card Recommendations, *Medical Care*, 13(1): 10-24.
- Bennett, P. & Murphy, S. (1999) Psicologia e promoção da saúde.
- Dann, G. M. S. (1977) Anomie, Ego-Enhancement and Tourism, *Annals of Tourism Research*, 4(4): 184-194.
- 土合真由美・瀧上恵子・吉田さおり(2005)：尿路結石再発予防のための行動変容へのアプローチ—健康信念モデルを使用しての検討—。成人看護Ⅱ，36，136-138。
- 堀毛裕子(2009)：健康行動のモデル。日本社会心理学会編，社会心理学事典，丸善。
- 姜淑瑛(2004)：ヘルスツーリズムの意味と展開。立教大学大学院観光学研究科2004年度博士学位論文。
- 丸野俊一(1991)：心的世界や過程に関する幼児の理解—幼児はどのような「心の理論」を持っているか—。九州大学教育学部紀要，36(1)，65-86。
- 三浦千景・日合系伊子・岡本さおり(2001)：胸腔ドレーン挿入中の患者へのアプローチ—ヘルス・ビリーフ・モデルを用いた指導の効果—。沖縄県立看護大学紀要，2，1-7。
- 日本観光協会編(2008)：ヘルスツーリズム事例集。日本観光協会，50p。
- 野口京子(2004)：健康心理学。金子書房，189p。
- 小川俊樹(2006)：心理臨床における援助。海保博之・楠見孝監修，心理学総合事典，朝倉書店。
- Rosenstock (1965): A National Study of Health Attitudes and Behavior, Ann Arbor, *The University of Michigan, School of Public Health*.
- 島井哲志(1997)：健康心理学。培風館，183p。
- Straub, R. O. (2007): *Health Psychology: A Biopsychosocial Approach, 2nd ed.*, New York: Worth Publishers, 512p.
- 藤内修二・畑栄一(1994)：地域住民の健康行動を規定する要因—Health Belief Modelによる検討—。日本公衛誌，41(4)，362-369。
- 藤内修二・長嶺敬彦・佐藤隆美(1990)：高血圧症患者のコンプライアンスに関する研究—Health Belief Modelによる検討—。日本PC会誌，13(2)，167-176。
- 坪野吉孝・深尾彰・久道茂(1993)：地域胃がん検診の受診行動の心理的規定要因—Health Belief Modelによる検討—。日本公衛誌，40(4)，255-264。
- Um, Seoho & Crompton, J. L. (1990) Attitude Determinants in Tourism Destination Choice, *Annals of Tourism Research*, 17, 432-448.

A Study on Health and Beauty Perception in Korean Health Tourism

LEE Changmi

This study is focusing on the psychological motive of tourists in health tourism and aims to examine the behavioral process theoretically with cognitive dimension of motivation. Two factors, “health” and “beauty” are one of most important factors for understanding health tourism. Those are termed “health perception” and “beauty perception” in this study. For this study, health and beauty perception was explained by the concept of “Health Belief”.

Health tourism is one of the fastest-growing businesses. Many countries are promoting health tourism. Especially Korean health tourism is growing with great strides. This study that targets Korean health tourism intends to reveal how health and beauty perceptions have formed under the social and cultural background and to analyze the effect of those on health tourism development. This research also intends to examine behavioral process of tourist based on those results.

With regard to tourist behavior, “the belief of Korean medicine” and “the interest of beauty by the unity of body and soul” act as push factors, and affect attitude formation of tourist in health tourism. In other words, traditional health and beauty perception are presented as push factors with cognitive dimension of motivation. The health tourism industry, meanwhile, arouses tourist’s interests using health and beauty elements which reflect health and beauty perception. Therefore health and beauty perceptions are influential and important factors in health tourism.

Health tourism holds great potential in tourism industry. This study provides a better understanding of potential tourist perceived health and beauty perception in health tourism industry. The findings of this study may suggest theoretical and practical implications to improve health tourism.

Keywords : Health Tourism, Health Perception, Beauty Perception, Tourist Behavior